

全校生徒が書いた短歌の中から、優れた作品を紹介します。

六月のお題は、「青」、「動物を詠み込む」、一年生のみ「地域探訪」です。

月間賞



すっぱくて固くて青いこの果実おもい名前が付くのを待ちわびて、夏

三一三 桑折 文千

第二席

鼻先に香る果実が青々と今年も再び夏が漂う

一一一 中澤ひなた

第三席

傘の中跳ねた雨粒見上げたら垂れる雫と藍鼠あいなずの空

二二三 氏家 鉄朗

※藍鼠（あいなず／あいなずみ）：藍味を帯びた暗い鼠色のこと。江戸中期に流行ったグレー。

通り道青紫のアサガオに「行ってきます」と走りゆく朝

三一一 梨崎 玲奈

青空に光の柱がそそぎこむ たわわに実ったさくらんぼたち

三一二 福地 柁斗

音がする風かもしれない分かっているでも生命の心音感じていたい

二一三 佐藤 優希

優良賞

なでたいなけれどもつれない猫じゃらし遠くの方から「にゃあ」と笑われ

三一二 鈴木 沙南

楽しみな高校初の夏休み青いソーダが未来を映す

一一三 千葉みずき

佳作

大好きなひまわりのたね探してる昨日自分で隠したでしょ

三一一 千葉 望

梅雨がきて毎日降る大雨が空も心も青色に染める

二一一 鈴木奈津美

かさかさとして揺れたと思ったのひよっこり顔出すノラネコさん

二一三 鈴木 梨奈

岩出山静かな町に響きわたる小川の流れに心も洗われ

一一一 伊藤 玲奈

道の駅むかし築いたつながりを今も大事に保っている

一一三 斉藤 佑果